

学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式（中学校用）

都道府県名	三重県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	伊賀町立霊峰中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	2	9	19
生徒数	65	73	93	2	233	

研究の概要

1. 研究主題

一人ひとりが学習に取り組み、協同で学び、深める授業を創造する。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全ての学年・学級と教科でねらいを持った研究授業を行い、授業改革を進める。
 ・1年 理科 実験を協同で行い、予想をたてて検証しながら、学びを深めていく授業の研究。
 ・2年 社会 テーマをもとにした討論の授業で、一人ひとりが意見を持ち、討論を通じて学び合う授業を研究。
 ・3年 英語 学力検査から低学力傾向の生徒の割合が多いことから、一人ひとりが参加し、基礎的な学習内容を定着させるための指導の工夫の研究。
 目指す生徒像、学力像、そのために必要な授業のあり方や教育活動の検討。講師による問題提起や指導・助言。先進校の取り組みなど文献からの研究など。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	テーマ「一人ひとりが学習に取り組み、協同で学び、深める授業を創造する。」 目指す生徒像の検討。 そのための教育活動のあり方と授業改革の方向性の検討。 に基づく授業改革の検討と研究授業。 学力検査の分析による実態把握。 少人数指導、個に応じた指導方法、指導体制の工夫改善。 選択授業のあり方の検討。 学校評価アンケートによる授業に関わる生徒・保護者の評価を生かした内容や指導方法の改善。
--------	---

平成16年度	テーマ「一人ひとりが学習に取り組み、協同で学び、深める授業を創造する。」 生徒の学力実態の把握と目指す学力像の検討。 をもとに15年度の研究をベースにした授業改革の継続。 学校独自の学力把握の検査の検討と実施。 選択基礎補充授業の内容や学習形態の研究。 学習評価のあり方の検討と学習意欲を高め、学習習慣を育てる指導の工夫。 学校評価アンケートも生かした生徒とともに授業を創造する。
--------	--

(3) 研究推進体制

管理職及び各学年1名の5名による教育研究推進委員会で、研究の方向性や内容について提案し、推進している。
 授業研究については、3つの小グループに分かれて、授業をビデオに撮って、小グループでの研究と全体での研究授業を行っている。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

学力向上のために以下のことが明らかになった。
明確な学力像の検討とそれに基づく授業づくりがポイントになること。
生徒が意欲的に学ぶために、学ぶ意義が感じられる授業、出会いや発見のある学び合いや参加できる授業創造が必要であること。
一人ひとりが授業に参加できる手だてを工夫して、学習参加を促すこと。
「共に学ぶ」ために「わからない」と言えたり、教え合える関係を生徒間、生徒と教師間に創り出すことが重要であること。
見える学力とあわせて、その土台になる「見えない学力」に着目していく必要があること。そのための、具体的な取り組みとしては、教科それぞれの学力とは別に、学習を意欲的に進めていく共通の学力を育てるために、教科横断的な授業目標を持つことが必要であること。

2. 今後の課題

学力像の検討と実態を把握する検査のあり方。
引き続いて生徒とともに進める授業改革。
教育課程全体の検討と選択授業の内容や形態の工夫と改善。

学力把握のための学校としての取組

14年度、15年度と学力検査を実施（1年は算数・国語2年・3年は英数国）して比較検討をした。
学校独自の学力像に基づいた学力把握の検査を研究して実施していく方向で研究を進めている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1月19日（月）事務所管内の小中学校の教員、事務所、教育委員会を対象に公開研究を本校にて行い、教科の公開授業と「学力向上と授業づくり」についての分科会で研究討論をした。参加者28名。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無